

保育園安全だより

—事故報告より—

令和7年4月～5月分



令和7年度がスタートして3か月が過ぎました。暑い日が続き、保育園では水遊びやプール活動等夏の遊びで子どもたちが生き生きとしている頃ではないでしょうか。昨年は猛暑の関係でプールに入れない日も多くあったためかもしれませんが、例年に比べてプールでの事故報告は少ない傾向でした。今年も水分補給や休息に留意しながら夏ならではの活動を工夫していきましょう。

令和7年度 事故内容集計(4～5月)

	骨折	打撲 捻挫 脱臼	外傷	掻き傷 咬傷	虫刺	誤嚥 窒息	誤飲 誤食	その他	計
0歳児	0	8	11	1	0	0	2	0	22
1歳児	2	38	50	15	0	0	2	3	110
2歳児	0	38	46	34	0	0	1	4	123
3歳児	1	25	35	13	0	0	0	2	76
4歳児	0	26	25	13	1	0	0	2	67
5歳児	1	36	38	5	1	0	0	4	85
計	4	171	205	81	2	0	5	15	483

【事故内容集計から】

令和7年4月～5月に発生した認可保育園（私立保育園含む）の事故報告書総数は483件でした。

- ①上記の集計結果から乳児クラスの事故が多く、特に2歳児では他児とのトラブルから、引っ掻き傷・咬傷が多く報告されました。新年度を迎えた乳児クラスは、特に職員間の連携が必要です。互いに声をかけ合い子どもの思いを汲み取りながら安心して過ごせる環境を整えていきましょう。
- ②食事の誤飲・誤食事故は乳児クラスで報告されています。子どもの成長を見極め、保育士・調理職員が調理形態を共有し、介助時には口に入れるタイミングと量、きちんと飲み込めたかを最後まで見届け、誤嚥のリスクの防止に努めましょう。

【事故報告書記入のポイント】

今回の保育園安全だよりでは事故報告書記入のポイントについても記載しています。事故報告書に原因（課題）と対応内容・その後の改善策がわかりやすく記載されていると、園内での共有に活用でき、事故予防につなげることが出来ます。提出時には記入のポイントがしっかり押さえられているか、確認しましょう。

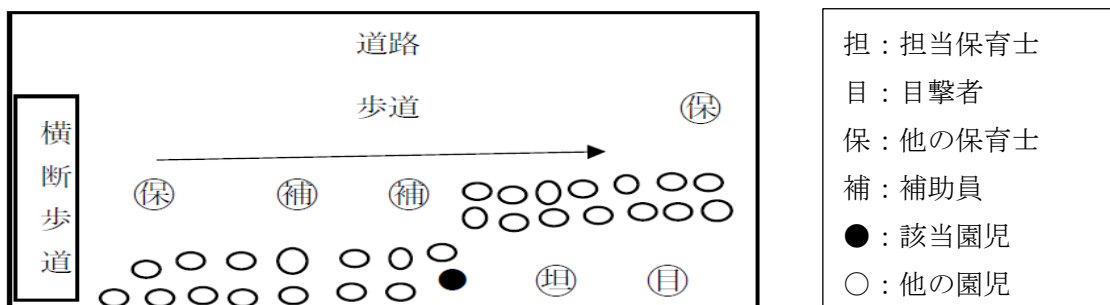
【事例1】 4歳児 発生時間 11時15分 <熱中症の疑い>

《発生状況》

午前10時20分頃、4・5歳合計29名で公園に散歩に行く。暑さもあり、該当園児は日陰で保育士や友だちと靴とり鬼や固定遊具で遊び、こまめに水分補給をしながら40分程度遊んだ。11時10分頃園に向かって出発したが、公園を出て50m先の横断歩道で2度嘔吐し、さらに座ってもう1度嘔吐した。3分程度休んで再び歩き始めたが、30m先でも嘔吐し座り込んでしまった。歩いての帰園は難しいと判断し、園にお迎えの応援要請の電話を入れたが、すでに前方を歩いていた職員が連絡を入れており、応援に向かっていた。応援がくるまでは木陰で休みながら待ち、合流後は該当園児をベビーカーに乗せ、脇や首など冷やしながら帰園した。

帰園後すぐに涼しい部屋に入り首を冷やす。その後事務所に移動して看護師と共に脇と首を冷やした。顔色が戻らない様子であったため、保護者の承諾を得て園医にベビーカーを利用し受診する。受診後顔色や口数も戻ってきた。OS1での水分補給をする。昼食はスープ・果物全量、パン半分、おかずは1口食べた。その後午睡に入り、15時頃母親が迎えに来る。降園後家庭での様子は変わりなく過ごした。

《現場図》



《原因・問題点》

気温が高かったため、随時水分補給をしたり日陰で遊ぶようにしていたが、固定遊具での遊びと靴とり鬼などの身体を動かす激しい運動となってしまった。

《その後の改善策》

- ①一人ひとりの顔色を丁寧に見ていくとともに、子どもたちにも体調の変化を感じたときにはすぐに保育士に伝えることを確認した。
- ②気温が高く熱中症の危険性が高い時は、散歩を短時間にしたり、戸外には出ず無理なく室内広場を利用するなど快適に過ごせる場所を選択していく。
- ③散歩に出る際は、子どもの個人用の水筒だけでなく、園からも補充用の水筒を持って行き水分補給を確実におこなう。冷やしタオル、保冷剤も持っていく。

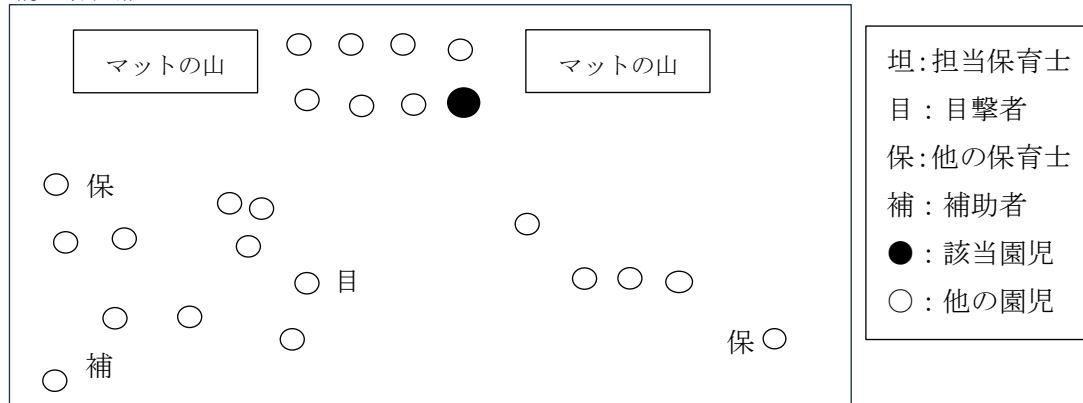
この事例は昨年度9月後半に起こっています。熱中症対策は暑さに応じた配慮を行っているところですが、改善策②のように当日の状況を適切に把握し、予定の変更を検討することも必要です。また、戸外での体調不良に速やかに対応できるよう、シミュレーションを行い、受診の判断を含め職員間で共有し、確認をしておきましょう。

【事例2】 5歳児 発生時間 9時45分

《発生状況》

室内で子ども24名、大人4名でしっぽ取りをしていた。マットが重なっている場所が2か所あり、子どもが隠れるようになっていた。その隙間に該当児を含め数人が隠れていた。鬼役の保育士がその場所に向かって歩いていくと、その場所から逃げようとした園児が、該当児の手に気が付かず踏んでしまった。該当児が泣いて痛みを訴えたので腫れを確認し冷やした。その後様子を見ながら園庭で過ごしていたが、着替えの際再び痛み、確認すると腫れが見られた。

《現場図》



《原因・問題点》

- ・遊び始める前に子どもが密集する場所を確認し、約束を子どもたちに伝えるなど、安全への配慮が不足していた。
- ・昨年度はマットの隙間に隠れる姿がなかったため、予測ができなかった。
- ・本児が痛みを訴えていたので患部を確認したが、赤みや腫れが見られなかったため、その場で冷やして様子を見た。

《その後の改善策》

- ・遊び始める前に、室内の状況や遊びの設定に危険がないか確認する。
- ・事前に安全を考慮したうえでの遊び場の範囲を子どもたちに伝える。
- ・自分の動きや相手の動きによってどんなことが起こりうるかなど、その都度子どもたちと確認し、行動の予測が身につくようにしていく。
- ・該当園児に痛がる様子がなくても、受傷場面を目視できていないこともあるため、すぐに事務所や看護師に確認してもらう。

今回の怪我は、手を他児に踏まれてしまったケースです。気持ちが昂るような活動の中では、このような怪我は起こりやすく、複数の子どもたちが同じ行動を起こそうとした際には、周囲に気を留めることは難しくなってきます。活動場所が活動内容に適しているのか、保育者が子どもの行動を予測し環境を整えることが必要です。外傷が見られない場合、受診判断が難しく、お子さんが痛みを感じていても大人に訴えてこない場合もあります。患部を冷やした後、手や指の動きを確認し、その時に痛みがないかお子さん自身に確認しましょう。また、怪我をした際の通院判断をどのようにしていくか、園内で決めておくことも有効です。早い判断をすることで、お子さんの痛みの時間を軽減できる可能性が高まります。



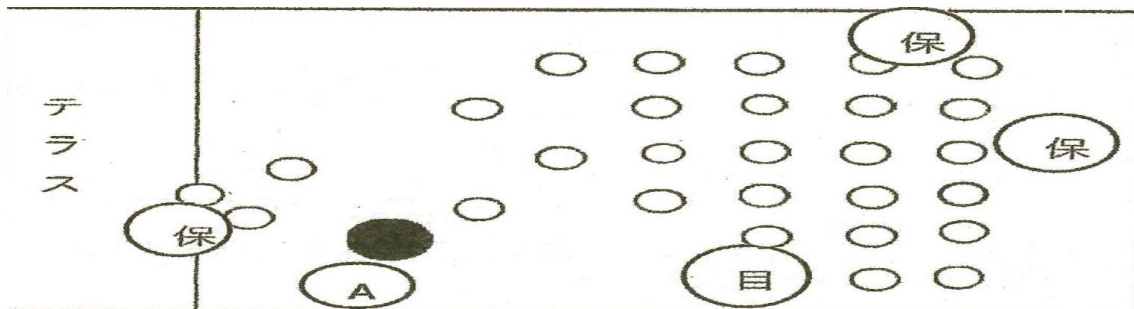
【事例3】

[診断名] 打撲

[発生時間] 午後12時45分頃

[クラス] 3歳児クラス

[現場 図]



[事故発生状況]

午睡時に起こった事故。入室してから、事務所へ毎日塗布している薬を塗ってもらうために隣接する事務所へ該当児は向かって行った。そこに、自分の布団の場所を探していた4歳児童A児の側頭部と該当児の頬がぶつかる。赤みが見られたため冷やしながら入眠した。午睡明けに患部の様子を確認したところ、赤みは薄くなっていたが残り、うっすらと青みもあったため、受診をする。

[応急救護処置の内容]

患部を冷やす。

[事故原因・問題点]

- ・午睡時のため、ホールの視界が通常より良好ではなかっただけでなく、足場も不安定だった中での移動を促してしまった。
- ・他クラスも布団についている途中であり、そのため子どもの動線が交錯してしまった。

[その後の改善策]

- ・危機察知能力の甘さから起こった事故であった。部屋に入ってから移動を促すのではなく、ホール入室前に薬の塗布を行うなどの配慮を行っていく。
- また、暗めの室内は見通しが悪くなるという事を徹底しておさえ、子どもの動きを見落とさないよう努めていく。

[園長意見]

子どもの動きが交錯した中で起こった事故であった。また、午睡室内はそれほど暗くはないものの、明るい外から入っているため視界が慣れるまで時間もかかる。以上の条件を考え、子ども動線の整理や、行動を見届ける配慮を行うことを確認していった。

～看護師のコメント～

本事例は、午睡前、暗めの室内で発生した事故になります。暗めの室内は見通しが悪く、足元も不安定なため、転倒しやすい環境になります。午睡中に中途覚醒し、トイレに行く時はさらにリスクが高くなるので、室内の環境を整えることが大切です。今回は午睡前の出来事でしたが、午睡中の注意点を再確認し、午睡中の子どもの事故防止や、子どもの変化に気づき対応できるようにしましょう。

保健マニュアル抜粋

- ・子どもは仰向け寝にする
 - ・掛けものが、顔にかからないように、胸より上には掛けない
 - ・よだれかけは、はずす
 - ・枕や枕代わりにたたんだタオルなどは使用しない
 - ・マットと壁、マットとベッドの柵などの間に顔が入らないようにする
 - ・午睡室は子どもの顔色が見えるくらいの明るさを保つ
 - ・午睡室には必ず正職員が在室して、子どもの変化に対応できるようにする
 - ・睡眠時チェック表の記入をする
 - ・0歳・1歳児は5分毎、2歳児は10分毎、3歳児以上は15分毎に記録
 - ・温度・湿度・換気など環境を整え、部屋を暖めすぎないようにする
- があります。

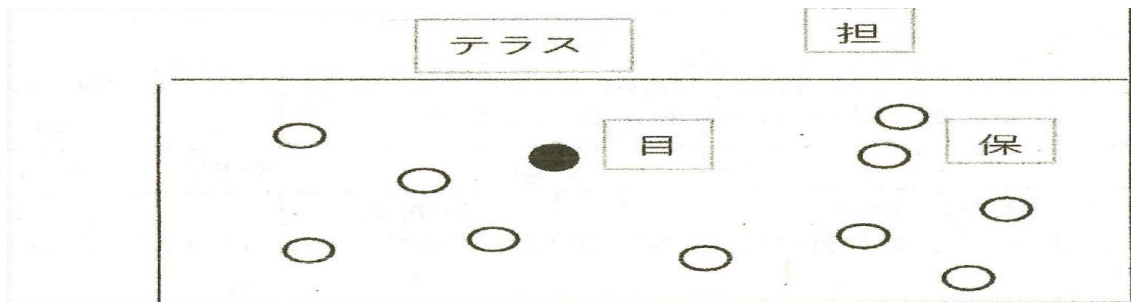
【事例4】

[診断名] 鼻腔異物

[発生時間] 午前 10時00分頃

[クラス] 2歳児クラス

[現場 図]



[事故発生状況]

園庭で遊んでいた時に本児が石を発見し、元担任である目撃者の保育士に見せに行った。やりとりをし、本児は遊びに戻っていった。しばらくして本児が目撃者の保育士のもとへ泣きながらやってきて、確認したところ右鼻から鼻血が出ていて「いし…いたい」と訴えた。興味本位で奥まで押し込んでしまったと思われる。

[応急救護処置の内容]

指を鼻に入れないように、血をぬぐい、懐中電灯で鼻の穴の中を確認した。しかし異物は発見できなかった。

[事故原因・問題点]

該当園児が鼻に入れる瞬間を誰も確認できていなかった。該当園児がそのような行動にでると予測できなかった。

[その後の改善策]

好奇心からまだ口や鼻などに異物を入れる年齢であることを、職員が意識していく。特に戸外では手の届く場合に石や草花の種、虫などが多くあり、興味を持って触れている。子どもの興味関心も大切にしていくなかで、扱い方を知らせたり遊んでいる様子を見守っていく。

[園長意見]

原因・問題点に記載してあるように、危機予測が不足していた為起こってしまった。年度が変わり子ども達もまだ落ち着かない様子も見られており、年齢的にもまだまだ好奇心で行動してしまうことも予測されるので、子ども達の行動には十分気を付けながら見守りや声かけをしていくよう職員間で周知し、再発防止に努めていく。

～看護師のコメント～

今回の事例は、鼻に石が入ってしまった事例です。

子どもは、予期せぬ行動から異物を鼻や耳に入れてしまうことがあります。

異物を入れてしまった際には、保健マニュアルに沿った対応をしましょう。

保健マニュアル抜粋

1、鼻に異物が入った

① 両方の鼻の穴を開けたまま、口から吸って鼻から強く息を吹き出させる
(上手にフンができない子は、かえって吸い込むことがあるので注意する)

② 取れない時は、耳鼻科を受診する

(ファイバースコープがあることを事前に確認しておく)

・豆などの小さい丸いものは、取ろうとするとかえって中に押し込んでしまったり、子どもが嫌がって騒ぐことで、異物が気管支に吸引される危険性もあるので、無理をせず速やかに受診する。

2、耳に異物が入った

耳に虫が入ったときは、ライトを近づけると出てくることが多い。その他の物は、耳を傾けて片足で跳んでみて、出ないときは無理せず耳鼻科を受診する。があります。

子どもの訴えに耳を傾け、異物が取れても残っている可能性も念頭に置き、受診をしていきましょう。

事故報告書記入について

事故報告書の作成は、原因・問題点・課題・解決策・受診内容などを正確に記録することで職員全体が問題意識を共有し、安全な保育に繋げるためです。下記のポイントを参照いただき、誰が見ても発生状況がわかる内容を記入し、課題を理解して対応できるようにしましょう。

事故報告書(記入例)				
園番号 (0)		保育園名: ○○○○ 保育園		
発 生 日 時	令和 7 年 2 月 25 日 (火) 午後 3 時 50 分			
ふ り が な	せたがや はなこ	性別	保護者氏名	世田谷 太郎
児 童 氏 名	世田谷 花子	ク ラ ス	2 歳 児 クラ	
		受傷部位	前歯	
生 年 月 日	令和 3 年 1 月 21 日	受傷内容	打撲	
発 生 場 所	保育室・ホール・廊下・階段・玄関・トイレ・ベランダ・テラス・園庭・プール・手洗い場・道路・公園・その他()			
現場図		その場にいた		
担 : 担当保育士	ピアノ	保育者	3 名	会計年度1名含む
目 : 目撃者		園 児	12 名	(2歳児クラス)
保 : 他の保育士		園 児	6 名	(3歳児クラス)
補 : 補助員		担当保育士名	(経験年数)	
		東京二三子	経験	3 年
		目撃者名	(経験年数)	
		若林五郎(会計年)	経験	28 年
発 生 状 況	おやつ後にホールで2歳児3歳児合わせて18名が過ごしていた。18名を10名と8名に分け、ピアノで「おおかみさん」の曲に合わせて身体を動かしていた。8名の児が遊んでいる際、会計年度職員がおおかみ役をして子どもたちを追いかけ始め、A児を捕まえようとした時に、その横を走っていた該当児がつまづいて転倒した。該当園児は転んだ際手をついたが、勢いがあったため口を床にぶつけた。			
応 急 処 置	止血をし、患部を冷やす。			
原因・問題点	・該当園児が走っている前を会計年度が走り、視界が遮られた。 ・該当園児は興奮しており、周りが良く見えていなかった。 ・夕方で疲れがあったため、足がもつれてしまった。			
その後の改善策	・保育士(会計年度含む)が追いかける際、子ども走っている様子を見ながら、危険のないように走る。 ・ホールで遊ばせる際、興奮させすぎないような遊びに工夫する。 ・日常から両手足をしっかりと動かし、転倒しても両手でしっかり身体を支えられるような遊びを工夫する。 ※ 普段の生活の中で口を開けて過ごすことが多いため、唇をしっかりと閉じることが意識できるよう声掛けをし、転倒の際に唇で歯を保護できるようにする。(受診時医師の指導)			
園長意見	歯をぶつけて歯科受診をするケースは多いが、今回は明らかに歯茎からの出血があり、保護者もかなり心配されていた。保護者指定のかかりつけを受診したが、結果的には違う小児歯科で舌からの出血も判明し、歯科2箇所を2回ずつ受診した。2歳児といっても月齢は低く小柄なため、まだまだ転倒の可能性は高い。今回の経過観察とともに、転倒のリスクを少なくするように保育の仕方を検討していく事を確認した。また、会見年度とも共有していく。			
保護者への連絡	時刻	連絡者(保育士等)	受信者(保護者等)	
	午後 4 時 0 分	東京 二三子	世田谷 七海(母)	
保護者への連絡内容	・ホールでおおかみごっこをしていた時につまづいて転んでしまいました。 ・手はついたのですが顔面を床にぶつけ、口元から出血したため受診したい旨伝えた。			
保護者の受け止め状況	冷静に受け止め、「お願いします」とのことだった。			

《お願い》

- ① 事故の内容によっては治癒まで時間を要し、後日経過報告書の送付が必要な場合があります。その場合「後日経過報告書提出予定」と記載した付箋を事故報告書に添付して、提出をお願いいたします。
- ② 後日提出する経過報告書には、園名・園児名・事故発生日時も記入してください。